

# 神奈川を掘る

玉川文化財研究所 研究論集 2021



# 神奈川を掘る

---

玉川文化財研究所 研究論集 2021

---



今田遺跡旧石器時代調査全景



第Ⅳ文化層礫群と土層

#### 遺跡概要

境川下流右岸の相模野台地上に立地し、調査の中心となった旧石器時代の文化層は相模野B0層～B2層までに4時期が確認された。相模野第Ⅳ期後半に位置付けられるB1層上部からは、石器ブロック5ヵ所、礫群9基、配石2基が発見された。他に縄文草創期爪形文土器、中世の建物址と墓域が発見された。



第Ⅲ文化層礫群



泉警察遺跡全景



7・8号住居址全景

#### 遺跡概要

境川下流の和泉川左岸に位置し、縄文時代中期中～後葉に属す集落跡。住居址29軒、土坑15基による環状集落の約半分となる北東～南西部分を調査。主体時期となる加曾利E3古～新段階の良好な土器群が出土。その後、残西半分の調査により、環状集落の全体が明らかとなった。



1号住居址埋甕



梶山遺跡調査風景



J 5号住居址（縄文中期）

#### 遺跡概要

鶴見川下流の右岸域に位置し、縄文時代住居址6軒、弥生～古墳時代住居址20軒が発見された。調査区北側の地点は弥生～古墳時代の住居址が密集しており、南側の地点は縄文時代中期の住居址が密集している。なお本地点の南100mでは縄文前期の梶山貝塚が調査されている。



4号住居址（弥生後期）



殿屋敷遺跡群C地区環濠集落全景



保存地区調査状況

#### 遺跡概要

相模湾に注ぐ柏尾川の上流域に位置し、弥生後期の環濠集落全体が残されていることから、一部の調査にとどめ集落全域が保存された。なお土器群の様相から東京湾岸地域とは対峙関係にある集落と考えられる。集落の至近距離には墓域（方形周溝墓）が調査されている。包含層中からは縄文時代擦糸文期の良好な資料が出土。



環濠南東側全景



峯遺跡群遠景



第I地点全景

#### 遺跡概要

東京湾を眼下に望む丘陵上に位置し、近くには弥生時代の集落跡として著名な三殿台遺跡がある。4ヵ所の調査地点があり、縄文中期と弥生後期の集落と方形周溝墓が発見された第I地点、緩斜面の谷戸部を中心に形成された第II～IV地点では弥生～古墳時代および古墳～奈良・平安期の小規模な集落であることが判明。



第IV地点1・2号住居址全景

横浜市 三枚町遺跡（縄文時代～古墳時代 1986年調査） 表紙下段右の遺跡



三枚町遺跡遠景



調査区東域全景

遺跡概要

鶴見川支流の鳥山川右岸域の台地上に位置する。縄文前期、弥生後期から古墳前～後期に至る竪穴住居群の存在は、出土遺物とともに注目された。特に縄文前期の土器群では「三枚町段階」として提示し、古墳中期では和泉式土器の一括出土資料が注目された。



H23号住居址カマドおよび遺物出土状況

# 序 文

当研究所は1980年の設立以来、41年間にわたって遺跡調査の民間組織（会社法人）として活動してきている。民間調査組織の少なかった当初は、東京多摩地域を中心として調査を行い、やがて神奈川県域の調査に主力を移すこととなった。今回のグラビア遺跡写真の多くは1980年代に横浜市域で行った調査であるが、30数年を経ても写真から見るように計画的かつ整然とした調査の姿がある。

そしてこれらの報告書は小冊ではあるが図面・図版の無駄を排し、要領を得た質の高いものと自負している。言い換えれば、1980年代後半には現在と遜色のない調査・報告書体制が整っていたのである。今、改めてグラビア写真を見ると、今日的に再評価すべきいくつものテーマが浮かび上がってくる。次号以降に反映できたらと思う。

さてその後の研究所は首都圏域の調査に翻弄され、さらに全国各地の開発が集中した地域の要請により、飛騨市、太宰府市、仙台市、和光市、千葉市、新潟県、鳥取県、茨城県等々においても地域行政との関係のもとに、調査・整理・報告書を担当してきたのである。

開発の嵐が沈静化した現在においては埋蔵文化財への市民意識の高まりもあり、記録保存調査の極精密化、科学分析の導入、出土遺物保存の細密化等々により、発掘調査・整理・報告書作成業務が重点化し長期化する傾向にある。当研究所としても神奈川県下に腰を据えたさらなる調査体制を構築しなければならないところである。

しかしそのような調査優先の方向性に危惧をもちつつも、恒常的に調査成果に対する考古学的評価を与えていかねばならないことは確かであろう。今号も各調査から派生した研究の一端をこのように発表できることを誇りとしたい。

2021年8月31日

玉川文化財研究所 戸田哲也

# 目 次

麻生 順司 「神奈川県三浦半島における旧石器時代前半期の陥し穴」……………	1
戸田 哲也・中山 豊 「神奈川県下の礫斧」……………	33
石川 真紀 「神奈川県南西部の押型文期の遺跡について」……………	61
金子 浩昌 「貝鳥貝塚出土の鹿角製カエル彫像」……………	85
坪田 弘子 「勝坂期の人骨を伴う土坑墓」 - 天神山遺跡第Ⅲ地点J 9号土坑墓と東開戸遺跡SK12- ……	95
太田 雅晃 「中野中里遺跡出土の鉄鐸について」……………	113
中村 若枝 「平安時代の人はどこから貝を運んできたのか(その2)」 東京都町田市成瀬西遺跡における火葬蔵骨器埋納に伴う儀礼をめぐって - 貝類の年代測定の結果と今後の展開- ……	129
中村 哲也 「神奈川県内のウマ・ウシ出土事例」 - 古墳時代～奈良・平安時代- ……	139
西本 正憲 「宿場・街道筋の遺跡から出土した西洋遺物について」 - 東海道藤沢宿遺跡出土遺物を中心に- ……	155
林原 利明 「遺物・遺構からみた相模湾(承前)」 - 相模湾および湾岸における神奈川県の船舶関連資料- ……	179